

中国遼東半島の漁民信仰について

王 慧琴

1. はじめに

2004年の夏休みに、私は中国遼東半島の大連市旅順口区江西街道の董家村で一ヵ月ぐらいのフィールドワークを行った。董家村は遼東半島の南側、旅順の西側に位置し、渤海湾に臨んでいる。海岸線は全部で5キロぐらいある。昔からこの村は「董坨子」と呼ばれている。董家村の海岸の近くには小山のような小さい島がある。当地ではこの小さい島を「坨子」と呼んでいる。昔から村には主に董、陳、劉の三大苗字がある。その中に「董」という苗字が一番多い。そこで、この村を「董坨子」（写真1）とも呼ばれるようになった。

現在、董家村には265世帯あり、747人が暮らしている。そのうち60歳以上の人は40人ぐらいである。近年、中国では経済の発展にともない、人口の流動も激しくなっている。そのため多くの出稼ぎの人が内陸の農村から沿海部に移住するようになった。2004年にはこの村に、延べ800人あまりの人が移住している。村の総面積は3.82平方キロであり、山林の面積は150ヘクタールである。耕地が少ないため、主に漁業によって生活を維持している。村の人々は海での安全や豊漁などはすべて神様の加護だと信じている。従って、ここでは海神信仰を中心に紹介したいと思う。

写真1 董家村の坨子



2. 中国の海神信仰

中国では、海神といえば、先ず“媽祖”、“河伯”、“龍王”の三つが挙げられる。“河伯”は関係する記録が一番早く、“龍王”は関係する物語が一番多く、“媽祖”に対する評価が一番高かった。

“河伯”という名前は戦国時代の『庄子・秋水』の中にすでに記載されてある。“河伯”は主に江と河の水を管轄する。雨が降らなければ、河が涸れ、農作物が干からびるので、雨神への崇拜が非常に重要な意味をもっている。しかし、唐、宋時代からだんだん“龍王”に代わりをつとめられるようになった。

“龍王”の龍は中国古代神話中の一番賢い獣であるし、中華民族の象徴でもある。龍は実はトーテムの種類である。亀、蛇、魚、鳥、鹿など数種類の動物の複合体であるという。“龍王”は梵語のNagarajaの意識だそうだ。龍王の中で一番有名なのはやはり四海龍王である。それはそれぞれ東海龍王“敖広”、南海龍王“敖欽”、北海龍王“敖順”、西海龍王“敖閏”である。彼らは海水を管轄する以外、旱魃の時期に雨を降らせるような役目もある。

“媽祖”の崇拜は北宋から始まり、“河伯”“龍王”よりかなり遅かった。“媽祖”は“河伯”“龍王”と違い、実在した人物であるそうだ。“媽祖”のもともとの名前は“林默”と伝えられている。北宋建隆元年の3月23日に、福建省莆田県湄洲嶼に生まれ、宋雍熙4年の9月9日に亡くなったそうだ。“媽祖”は各代皇帝に“夫人”“天妃”“天后”、また“天上聖母”など称号を授けられ、地位は徐々に高くなった。しかし、“媽祖”は主に南方のほうに広く伝わっており、北方では龍王を祭る人が多いようである。

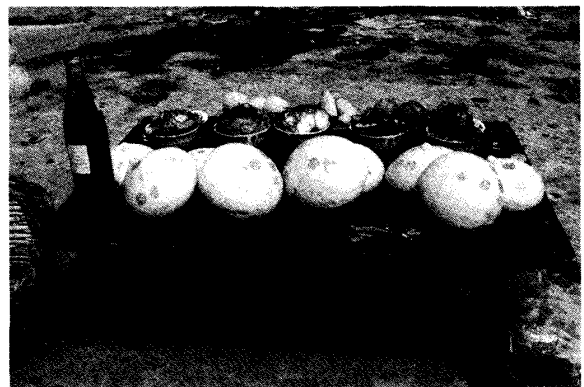
3. 董家村の漁民信仰

現在、中国南方の漁民信仰に関する研究はたくさんあるが、北方のものは極めて少ない。北方には漁民信仰がないではないかという疑問を抱える人もいる。ここでは遼東半島にある董家村の龍王信仰を実例として取り上げようと思う。

旧暦の6月13日は董家村にとって非常に重要な日である。海神の竜王爺爺と竜王奶奶を祭る日である。この村では海神竜王のほうを崇拜している。

前日の6月12日に、村の人々は豚や羊を賭殺し、「饅頭」など供え物を用意する。お正月のように、女性は一番忙しい日である。6月13日の朝から、各家では自分が用意した物を持って、先ず、竜王廟にいて、儀礼を行う。家から持ってきたテーブルに饅頭を9個、料理を5品、果物を3種類並べ、酒も供える。その後、線香に火をつけ、爆竹を鳴らす。爆竹の音は海神の竜王爺爺と竜王奶奶も聞こえるという。また、竜王廟の前で自分の願うことを祈願する。次に、海辺で酒や饅頭などを海の中に投げて、もう一度祭る。また、儀礼に供えられた饅頭や料理などはその日のお昼に親戚と友たちを招待し、一年の豊漁を祈る。この日は漁民にとって、お正月よりもにぎやかである。

写真2 供え物



董家村の竜王廟は40年代から既に古い廟があったそうだ。しかし、村の人々の強い要望で、2003年の初めに昔の古い廟の場所に新しい龍王廟が建てられた。

写真3 龍王廟



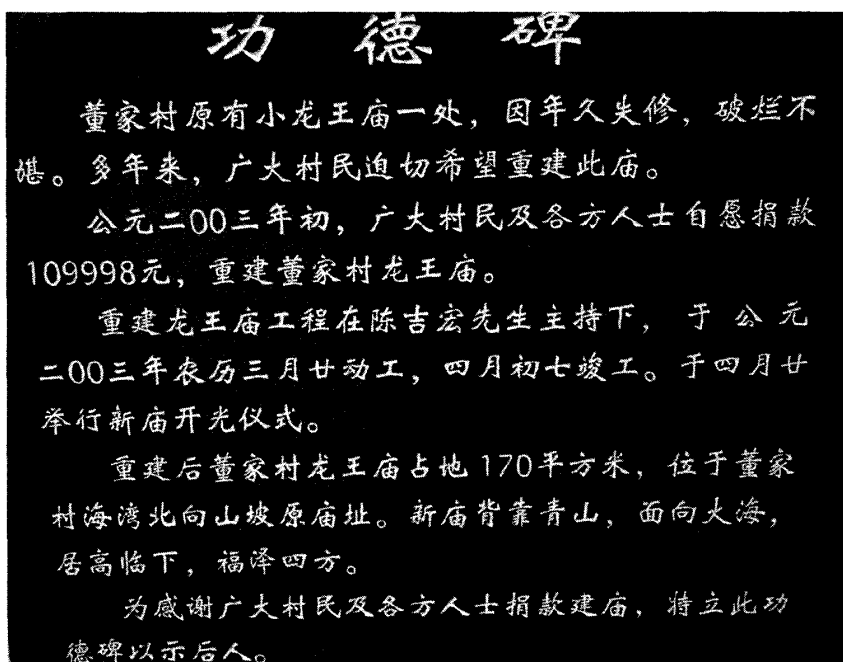
新しい龍王廟は主に村の人々の献金によって建て直されたそうだ。村の人々及び関係者から合わせて109998元を献金された。そのうち、大部分の人は漁民だという。それに、中国では“9”と“8”が運のよい数字だといわれるので、最後に109998元に決められたそうだ。

写真4のように龍王廟には功德碑もある。そこには献金者の名前が記されている。

龍王廟に献金された人の名前と献金金額は次の通りである。

| | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 陳吉宏 | 60500元 | 張成斌 | 10000元 |
| 董文忠 | 1990元 | 董文偉 | 1980元 |
| 于登州 | 1000元 | 鄒明強 | 1000元 |
| 遲希樂 | 1000元 | 袁宏亮 | 1000元 |
| 董文喜 | 1000元 | 董文勝 | 990元 |
| 董志印 | 990元 | 陳吉軍 | 990元 |
| 陳吉青 | 990元 | 周森林 | 990元 |
| 董有芳 | 990元 | 董文瀚 | 990元 |
| 董文爽 | 990元 | 刁勝利 | 990元 |
| 董文武 | 990元 | 董文岩 | 990元 |
| 董文壯 | 990元 | 董双全 | 990元 |
| 劉尊利 | 990元 | 刁勝勇 | 990元 |
| 陳德彬 | 990元 | 董文君 | 900元 |
| 杜祖純 | 500元 | 董文全(大) | 500元 |
| 劉汝平 | 200元 | 董文波 | 200元 |
| 董志鎖 | 200元 | 董文海 | 200元 |
| 于水 | 200元 | 董有財 | 200元 |
| 董文軍 | 200元 | 劉汝祥 | 188元 |
| 董文升 | 100元 | 劉汝彬 | 100元 |
| 劉汝元 | 100元 | 董艷東 | 100元 |
| 董文全(小) | 100元 | 董文斌 | 100元 |

写真4 龍王廟の功德碑



| | | | |
|-----|------|-----|------|
| 董又珠 | 100元 | 董文連 | 100元 |
| 董万勝 | 100元 | 李永軍 | 100元 |
| 鄭建東 | 100元 | 劉延弼 | 100元 |
| 陳德強 | 100元 | 朱占偉 | 50元 |
| 辛民慶 | 50元 | 張高鵬 | 50元 |
| 張彦民 | 50元 | 陳吉成 | 20元 |

このように漁民たちは海神への崇拜の気持ちを表すと同時に、子々孫々が永遠におぼえるように、このような意匠を凝らしたのである。

董家村の漁民たちはなぜこんなに海神龍王を信じているかという疑問を投げられるかもしれない。実は今まで董家村は何度も災難にあったことがある。

50年代と60年代の前半に、董家村はすべて「草房」であった。1964年8月25日に、村のあらゆる「草房」は全部強烈な竜巻によって吹き飛ばされた。この時期から、皆無利子貸し付けで新しい「瓦房」を建て直したと聞いた。

1999年11月24日の夕方から、董家村は急に

台風に襲われ、数隻の船が転覆した。その時、女性たちは皆海辺で竜王爺爺と竜王奶奶が守ってくださるようにお祈りしたという。竜王廟までお祈りする人もいたそうだ。神様は彼らにとって頼もしい精神的な慰めであった。このような天災の前に、弱い人間は希望と祈願することをすべて神様に託すしかないと村の人々はよくわかっている。

参考文献

日本版

王 崧興 中華民国56年 『龜山島—漢人漁村社会之研究』

中央研究院民族学研究所 專刊13

高桑守史 1983年 『漁村民俗論の課題』

未来社

中国版

李 露露 1995年 『媽祖信仰』 漢揚出版股份有限公司

徐 曉望 1999年 『媽祖的子民』 閩台海洋文化研究